

平成29年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子どもの姿や教育内容について知っているか。	A	89%の保護者が「たよりや各種活動の参観などを通して、学校が目指している子どもの姿や教育内容がわかる」と回答しており、保護者の関心が学校にしっかり向けられていると感じる。また、90%の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答しており、教師と生徒との信頼関係が構築されていると考えられる。今後も、生徒、保護者との円滑なコミュニケーションを継続させたい。	・学校、学年便りなどで学校の様子が良く伝わっている。 ・「視点」での担任とのやり取りで生徒理解が進んでいると感じる。 ・中学校は学校へ相談したり要望を言える手段が少なくなるように感じる。PTA役員も間に入るなど協力したい。 ・クラス毎のアンケート結果を考察することで、今まで以上に生徒・保護者との信頼関係が築ける。
		先生は子どものことを理解して指導にあたっているか。	A		
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	84%の生徒は「授業で学習した内容がわかる」と回答している。教師が基礎・基本の定着や表現力や思考力を伸ばすために様々な手立てを講じて「わかる授業」を行っていることと表れであると考えられる。それに対して「すすんで学習している」と回答した生徒の割合は76%とやや低く、昨年の77%と比べても評価を落とした。生学習意欲を喚起する授業(課題)をつくり、個別指導(学びの日などを含め)を充実させたりしていきたい。また、この項目の保護者アンケートは更に数値が下がるため、家庭学習の仕方などを含め良好な学習習慣が身につくために働きかけていきたい。	・結果から生徒の学習理解が進んでいることが伺える。 ・この先の「活用力」を重視する教育へ向け、生徒から出ている「話し合い活動」「少人数学習」「タブレットの使用」など改善が必要となる。 ・授業がわかると回答した84%よりも、理解の進んでいない16%への個別の配慮が必要である。 ・学力診断の好結果が授業の取り組みか、塾など外部要因の結果かを調査してみることも必要である。
		生徒は、進んで学習しているか。	B		
		生徒は、住んでいる地域のことに興味があるか。	A		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	主体性の実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	A	「進路や生き方について考える」の肯定的な評価は83%であり、将来に向けて発達段階に応じた教育(キャリア教育)がほぼ浸透していると感じる。「生徒は目標を持って生活しているか」について保護者アンケートでは76%の肯定的な評価をいただいた。数値的には昨年度と変化はないが、ただ漫然と生活しているだけに保護者は感じている。学習、部活動、係活動など短い周期で目標・反省・改善ができるような工夫を模索したい。	・結果からキャリア教育が着実に実践されている様子がわかる。 ・具体的な未来像がなくても、社会的な関わりや経験を数多くつんでほしいと考える。 ・職業体験や高校の先生による授業、卒業生の話などは子どもたちにとって尊い体験になっている。 ・学習、部活動などを通して、日々目標をもって生活できるように指導をお願いしたい。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	B		
	共生する態度の実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	A	「ルールを守り協力する雰囲気がある」「学校が楽しい」と回答している生徒が90%近くあり、生徒同士の中で温かな人間関係が育まれ、それが学校全体の良い雰囲気をつくっている。しかし、欠席率が高いこと(毎月平均で4~5%)が課題。こ数年課題である。一人一人の生徒や家庭に寄り添って支援していく必要があり、その体制を整えることが喫緊の課題である。また、学校と家庭・地域及び外部機関が協力して生徒を育てていけるよう、連携を継続していきたい。
生徒は、学校が楽しいと感じているか。			A		
生徒は、あいさつや返事がしっかりできるか。			A		
健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。	A	「あいさつ・返事ができる」と感じている生徒が97%おり、本校の誇りと感じていることが伝わってくる。校外に出てもこのことが実現できるよう、さらにあいさつ・返事の輪を広げていけるとよい。ボランティアについては、「進んで参加できる雰囲気づくりをしている」と答えた教師が78%に留まった。南中賛歌の一つでもあるため、特に生徒会を中心に呼びかけを行い、校内及び地域に「少しだけでも、そっとでいいので」貢献できるようなボランティアの輪を広げていける雰囲気づくりに努めたい。	・学校に伺った時の子どもたちの気持ちのよい挨拶が非常に嬉しい。校外でも積極的におこなってほしい。 ・地域でのボランティア活動への参加も多く、態度もよい。センターで行うボランティア事業の計画段階から生徒が参画できるとなお効果的である。 ・毎年「人権作文」が優秀な成績を残していることに敬服する。 ・今後も地域の貴重な戦力である中学生に防災・環境美化・祭典など様々な活動に積極的に参加してもらいたい。
		生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。	B		

<学校関係者評価を受けてのまとめ>
 ○生徒と教師、地域や保護者と良い関係をつくることができ、生徒のより良い成長につながっていると考えられる。地域や家庭の力を借りてさらに学校をよくしていく方策を考えていきたい。
 ○「授業がわかる」ところが生徒指導の第一歩と考えられる。今後必要となる知識・技能の習得やそれに向けた指導技術の研修を進め、特に「理解の進んでいない」生徒の配慮に心がけながら適切な支援に努めたい。
 ○今後も魅力ある学校づくりに努めていくと共に、不登校生徒への対応を今後も続けていく。保護者、外部機関、地域との連携を更に深めながら生徒・保護者に寄り添う指導や不登校等を未然に防ぐような支援に心がけたい。
 ○ボランティアで活躍した生徒を賞揚するとともに、今後も、学校や地域でよい体験、役に立つ経験を積極的に積みませ、これら様々な活動を通して自己肯定感や自尊有用感を育てていきたい。